

当院における小細胞肺がんの5年生存率について

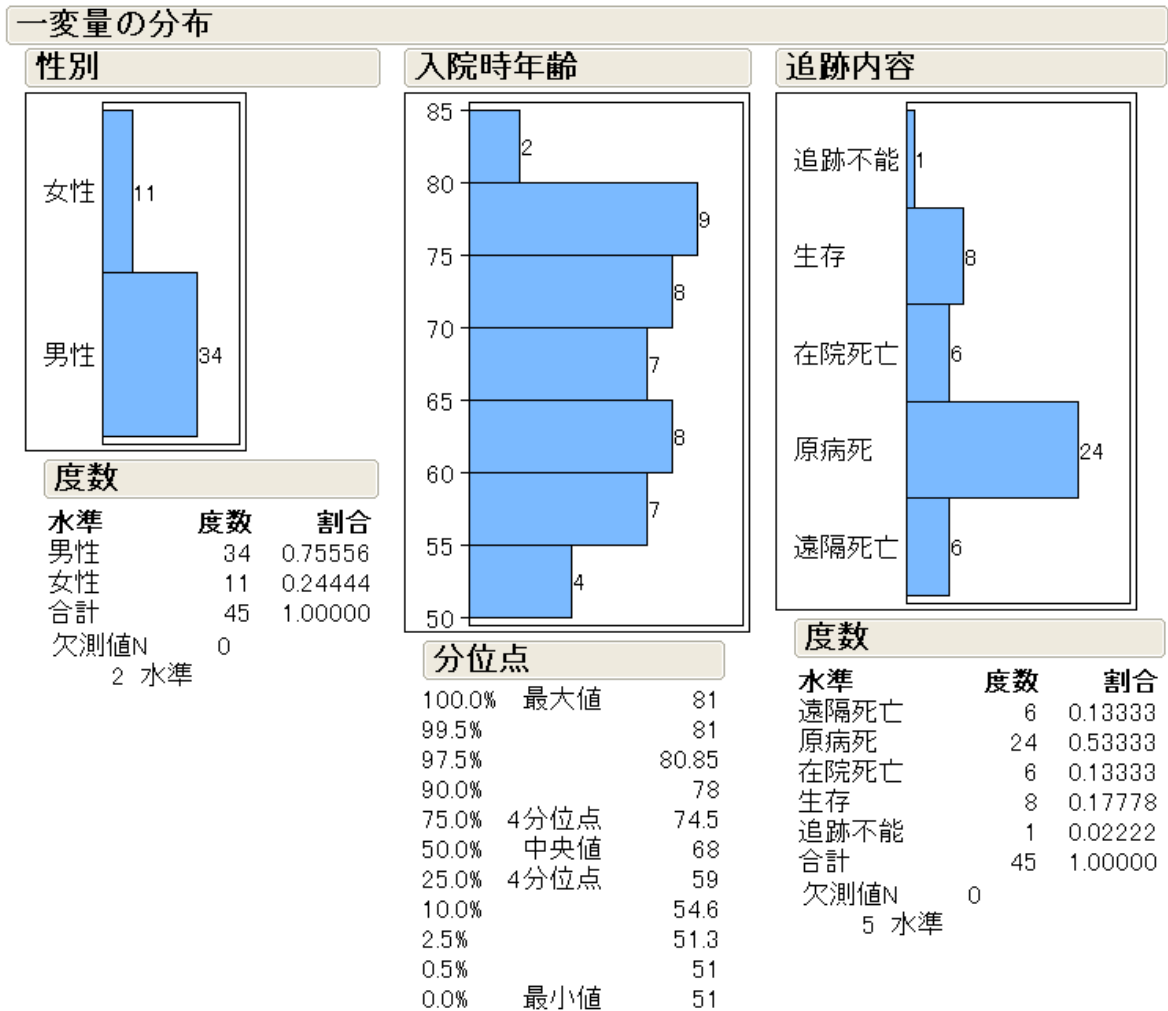
当院において、初めて小細胞肺がんと確定診断を受けてから5年後に生存している確率（5年生存率）を算出しました。

2005年8月1日から2006年7月31日までの1年間に当院において初回確定診断を受けた小細胞肺がん症例を対象として、進展度別の5年生存率を算出しました。

算出基準

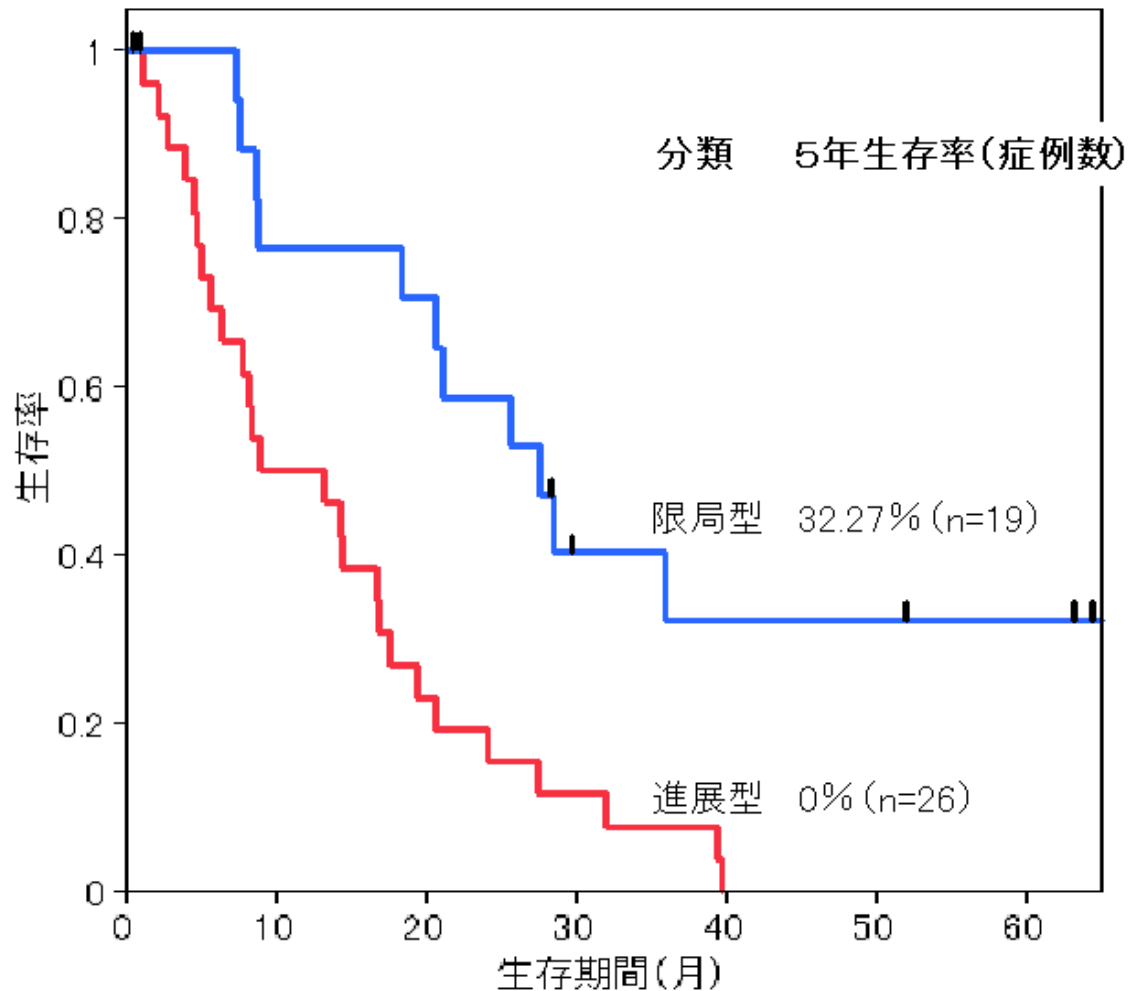
項 目	内 容
1 データソース	近畿中央胸部疾患センター政策医療呼吸器ネットワーク 診療要約作成システム (呼吸器ネットワークサマリシステム)
2 対象症例	小細胞がんの初回確定診断例
3 対象期間	2005年8月1日～2006年7月31日までの期間
4 対象部位	肺 *多重がん、転移がんを除外
5 計測項目	最終確認日 死因（原病死、他病死） 年齢 病期
6 観察開始時点	手術日
7 観察終了時点	がん以外の死因を含めた全ての死亡日 最終外来受診日などの最終確認日 2011年9月30日を最終観察日としました
8 生存率の算定方法	カプラン・マイヤー法
9 予後の調査方法	呼吸器ネットワークサマリシステムによる予後・転帰情報を、大阪府癌登録事業による予後情報で補完

結果 1 2005 年－2006 年度 小細胞肺がんと確定診断を受けた患者基本データ



- ・ 2006 年度の初回小細胞肺がんと確定診断をされた患者数は 45 名でした
- ・ 男性 34 名、女性 11 名と、男性は女性の約 3 倍でした
- ・ 最少齢は 51 歳、最高齢は 81 歳、中央値は 68 歳でした
- ・ 最終確認日において、8 名が生存、36 名が死亡、1 名が追跡不可能でした。

結果2 2005年8月1日～2006年7月31日 小細胞肺がんの5年生存率



- ・ 症例数が少ないため平均的な数値から大きく外れる可能性が高くなります。限局型で放射線療法と化学療法の合併療法を受けた場合、2年、3年、5年生存率はそれぞれ約 50、30、25%、進展型で化学療法を受けた場合、3年生存率は約 10%といわれています。(国立がん研究センターHP 参考：<http://ganjoho.jp/public/cancer/data/lung.html#prg21>)
- ・ これは統計学的な平均的数字であり、個々にあてはまるものではありません。予後は、がんのタイプ、がんの病期（がんが肺の中だけにあるのか、他の臓器に広がっているのか）、生活能力などの一般的な健康状態に深く関連しています。

【留意事項】

- ・ 「生存率」は確定診断後の生存者数の割合を言います。
- ・ 生存率は5～10%程度の統計的誤差があります。
- ・ がんの部位、性、年齢構成、合併症の有無、その他様々な要因の違いにより生存率に違いがあるので、単純に施設間の成績を比較できません。
- ・ 数値だけを比較して、生存率が高いという理由で医療機関を選択すると、思いがけない不利益を被る可能性があります。
- ・ 症例数が少ない場合、平均的な数値から乖離する可能性が高くなる傾向があります。

2012 年 4 月公開

2012 年 8 月改定